

乙 貞

第1号 (通巻第1巻第1号)

1981・01・31 発行

守山市立埋蔵文化財センター
07758-5-4397

524-02
守山市服部町1318番地

あいさつ

昭和55年11月3日、注目されておりました市立埋蔵文化財センターが、開館されました。このセンターは昭和54年・55年の2ヶ年にわたって、文化庁、県の補助金を得て建設を進めていたもので、服部町の地先に完成しました。本センターでは、市内の遺跡から出土した埋蔵文化財を保管し、調査し、そして研究する業務を担当し、その他展示、公開または、普及などの活動を行ないます。

まだ開館して間もないときですので、十分な事業が、また説明ができませんが、徐々に充実してゆくことを約束しましてごあいさつとします。

埋蔵文化財センター職員一同

刊 行 図 書 の お 知 ら せ

「守山市遺跡分布調査報告書」

「三津川遺跡調査報告書」

「吉身西遺跡発掘調査報告書」

「服部遺跡発掘調査概要報告書」

「守山往来」

この他に県内外の文化財調査報告書や刊行図書を多数蔵書していますので御利用下さい。なお、資料のコピーもできます。

センターニュース「乙 貞」について

乙貞ときけば、既に御承知の方も多いと思います。昭和59年4月から始まった服部遺跡の第一次調査で奈良時代の「みぞ」跡から出土した銅印の文字に、この「乙貞」がはっきりと読みとれたのです。

今、この銅印を焼き物にしてセンターの前に建ててありますが、守山の歴史の一断面をあらわすもので埋蔵文化財に関係するものの中で、この銅印の文字を選ぶことにし、ニュースの名称としました。

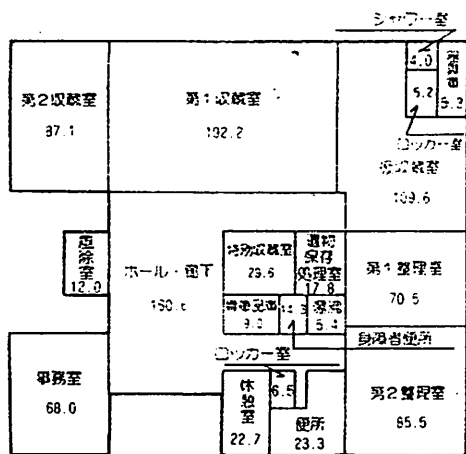
センターのニュース「乙貞」は今後、二ヶ月に一回発行しますが、ニュースをご覧になった方々の様々の御意見を参考にして、センターの運営やニュースの刊行にあたりたいと思いますので、よろしく願います。

埋蔵文化財センターオープン

昭和54年9月から建設を進めていた埋蔵文化財センターは昭和55年8月末に完成し、同年11月から開館しました。建物は鉄筋コンクリート造り二階建てで、建築延べ面積は1321平方メートルです。一階には収蔵庫が4室、整理室が2室、事務室、ホールなど、二階には写場、資料収納室、コピー室、研究室、会議室が設けられています。外観は石積み風にコンクリートに目地を切り、正面のふき抜けの屋根は銅板でふいてあります。これは年月の経過とともに風格がでるように設計しています。一階の収蔵庫には市内で発掘された遺跡から出土した遺物を保管し整理して写真や図面をとり、ホールに展示します。

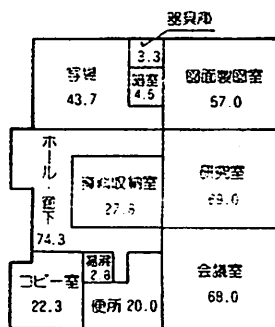
また、市内の遺跡を発掘調査し、歴史を明らかにし研究をします。この成果を文化財教室などを通じて公表します。埋蔵文化財センターとは、このように調査、研究、保管、そして普及などの活動、事業をする施設です。

1階 平面図・面積(m²)



1階床面積 928.6m²

2階 平面図・面積(m²)



2階床面積 392.7m²

センターの開館時間

土曜日の午後、日曜日を除く毎日 (9:00~16:00)

(ただし、団体は申し込みがあれば日曜日でも可)

センターへはバスの便があります。(守山駅から服部行乗車、終点下車)

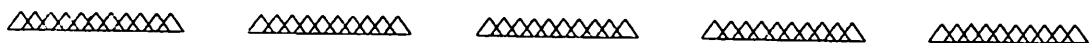
一埋蔵文化財センターで消火訓練を実施一

昭和56年1月25日(日)、全国で文化財防火デーに因んで様々な行事が催されましたが、守山市では埋蔵文化財センターで消火訓練を実施しました。消防署の皆様、地元の皆様、ありがとうございました。

昭和55年度発掘調査計画一覧表

1	小島遺跡	守山市小島町	55. 4月~5月	弥生~中世
2	横江遺跡	守山市横江町	55. 4月	平安~中世
3	益須寺遺跡	守山市吉身町	55. 7月~8月	奈良~平安
4	勝部遺跡	守山市勝部町	55. 8月	奈良
5	欲賀南遺跡	守山市欲賀町	55. 10月~11月	弥生~江戸
6	大門遺跡	守山市大門町	55. 11月~56. 2月	弥生~近世
7	伊勢遺跡	守山市伊勢町	55. 12月	弥生~平安
8	吉身西遺跡	守山市守山町	55. 12月	古墳時代
9	赤野井遺跡	守山市赤野井町	55. 1月	奈良時代
10	川中遺跡	守山市今市町他	56. 2月~	平安時代~
11	伊勢遺跡	守山市伊勢町	56. 3月~	弥生時代~

※上記の他に個人住宅に伴なう調査も予定があります。



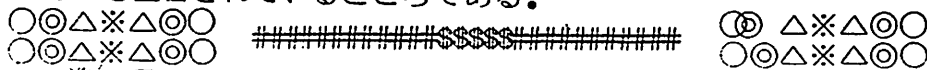
市内遺跡紹介 (五十音順) 1

赤野井遺跡

赤野井遺跡は守山市赤野井町、石田町、杉江町の三町にまたがる大規模な複合遺跡で、昭和51年、52年、55年の三回にわたり発掘調査が行なわれている。過去の調査で弥生時代前期から平安時代にかけての生活の跡が明らかになっている。もともと赤野井と十二里との間の水田は、他と異なり正南北の「あぜ」で区画されていて「ミヤケ」の跡ではないかと考えられていて注目された土地であった。発掘調査の成果で、古墳時代後期から平安時代までの建物跡が約80軒みつき、しかも、それらの建物はすべて南北方向に規制されていて、昔の役所跡ではないかと考えられた。出土した遺物の中には「琴」(古墳時代)や銅銭、墨書土器、「フィゴ」、鉄くず、があり、他に「正丁」、「赤見」と書いた文字もみとめることができた。

55年の調査では方形周こう墓と呼ばれる墓の跡や建物跡、「みそ」跡がみつかりました。

この赤野井遺跡は現在のところ市内で二番目に大きく、古い遺跡であり、全国的にも注目されているところである。



一次号予告

市内出土の遺物

新しく発見された遺跡シリーズ 2

遺跡発掘調査抄報

その他

新しく発見された遺跡シリーズ 1

昭和55年度中に新しく発見された遺跡について紹介します。

- 1 川中遺跡 守山市今市町に川中自治会があり、住宅街の北側で県住宅開発公社が新たに宅地造成をするのに先立ち、試掘した時に発見された。柱穴や などの他、多量の 恵器・土師器・黒色土器が出土した。
- 2 伊勢遺跡 守山市伊勢町地先において民間の宅地造成計画があり、それに先立って試掘をしたところ弥生時代から平安時代の遺物が多く出土した。
- 3 勝部遺跡 守山市勝部町勝部神社西側の水田で民間の宅地造成があり、試掘を実施したところ遺構が見つかり、8月から発掘調査を行った。
- 4 益須寺遺跡 守山市岡町地先で宅地造成の計画があり、試掘を実施した。奈良時代の「みぞ」や柱穴跡などが多数見つかった。益須寺に関連するものと考えられるので、この名称をとった。
- 5 浮気南遺跡 守山市浮気町地先（富士車両）の南端で宅地造成の計画があり、やはり試掘をしたところ弥生時代以降の遺構、遺物が見つかった。

埋蔵文化財センター職員氏名

所 長	小 島 安 雄	(市教委 社会教育課々長)
係 長	八 幡 一	(市教委 社会教育課文化財係長)
主 事	山 崎 秀 二	(市教委 社会教育課主事)
囑託員	岩 崎 茂	(市立埋蔵文化財センター)
囑託員	清 水 好 洋	(市立埋蔵文化財センター)
用務員	西 村 修	(市立埋蔵文化財センター)

?? ?& ! ?& ?& ! ?& ?& ! — 編集後記 — ?& ?& ! ?& ?& ! ?& ?

新年あけましておめでとうございます。とは言っても早や一ヶ月が過ぎました。開館当初からセンターのニュースを一日も早く皆様にお知らせしなければならぬと思いながらも三ヶ月が光陰のごとく過ぎ去りました。//月の文化財保護強調月間には見学に来られた方の数が約2000名近くに達しました。相にく、市内での発掘調査が多く、充分な説明などをさせていただけなかったことをおわび申します。今年度は発掘調査が多く、中でも真冬の調査は風が強く、つめたくしかも地面は凍りつき、足は「しもやけ」ができて、なんとも「みじめ」な状態です。

暖かい春を心から待っているのは草木だけではありません。(S 記)